



2012年 8月



最新のニュース

近日中の行事

大使館が文化交流を行い、アフガニスタン製品を購入できる空間を用意します

2012年10月27-28日
“世界ふれあい祭り”
東京都立川の昭和記念公園にて。

2012年11月9-10日
“港区ものづくり・商業観光フェア”
東京ミッドタウンにて。



8月19日の独立記念日のお祝い

8月19日、アフガニスタンの独立記念日が祝われました。この重要な行事を記念し、カルザイ大統領は式典を政府高官が集まるカブール市で執り行いました。式典では、花輪を国防省にある独立ミナレット（イスラム教式の尖塔）に飾り、アフガニスタン独立のために命を落とした人々の栄光を称えました。カルザイ大統領は、祝辞を述べ、アフガニスタンの平和と繁栄が続くことの希望の思いを述べました。大統領府の公式ウェブサイトによると、式典の最後に、カルザイ大統領は王やイスラム勇士やムジャヒディンまた国民的英雄の写真展を訪れ、名誉と誇りをアフガニスタンに届けた彼らの犠牲を思い起こしました。

等書記官、ジェトロの石毛博行会長兼CEOがそれぞれ記事をジャパン・タイムに掲載することで独立記念日を祝いました。同記事は、ニュースレターに転載されています。

相互支援的な関係性の強化
ファティミ大使

アフガニスタンの国祭日である今日、カルザイ大統領、政府、そしてアフガニスタン国民を代表し、天皇陛下と皇后美智子様そして日本国民と日本政府に深い尊敬の念を述べることをでき光栄に思います。

今号のコンテンツ

最新のニュース Pg.1-5

日本では、ファティミ大使、パイカン三

(Continued on page 2)

近現代的に2011年が我々の国祭日の92周年に当たる一方、我が国の歴史は何千年も遡ります。同じように、今年は日本と外交関係が樹立されてから81周年になりますが、日本との最初の交流は物や知識を貿易をしていたシルク・ロードの時代まで遡ります。長い時を経て、この商業と文化的関係は、人と人との接触や根深い交友関係、そして相互支援に発展していくことになりました。日本がアフガニスタンの開発や平和のために積極的にかつ指導的な役割を果たすことで、日本との関係は2001年の新政府樹立以来これまでにない程親密な関係となりました。世界トップ2のアフガン援助国である日本は、35億ドルを援助してきており、2009年に5年間で50億ドルと発表した内から16.7億ドルが拠出されています。これらの日本の援助はアフガニスタンの政治、安全保障、インフラの整備、教育、健康、そして農業や様々な分野への発展を促進してきました。このような無私の貢献に対して私達は深く感謝すると同時に、決して忘れません。

日本と親密な関係を保っている由に日本を襲った3月11日の悲劇は、遠く住むアフガニスタンの人々を悲しみに包み、アフガニスタン国民は自分の国のことのように悲しみました。アフガニスタン国民に代わり、東日本大震災で被災した皆様に心より哀悼の意を申し上げます。長年の日本からのアフガニスタンへの貢献を思い起こし、アフガニスタンが日本と共に団結していかないわけにはなりません。アフガニスタン国民が東日本大震災のニュースを知ってすぐ、政府や個人の政府高官からの経済的援助の申し出がありました。また、一般市民は、アフガン赤新月社のガイラニ会長が主導になりそれぞれが出来ることに努めました。アフガニスタンの子供たちは一致団結して、支援のために集まり、被災した方を少しでも励ますために絵を送りました。日本在住のアフガニスタン人はアフガニスタン大使館員と共に、特に近郊の人々に手を差し伸べたり、寄付を集めたり、茨城県で避難生活を送っている福島県の方へ家

具を提供したり、寄付金を福島市に届けるという様々な活動を行いました。このような支援は世界規模で考えると小さいことかもしれませんが、アフガニスタン人は援助に携えることに光栄に思いました。この苦境の時期を通して私達はこれよりも一層に友好関係が深まったことでしょう。

私の日本の在任経験から述べますと、日本人はとても強く、苦境にも負けず、努力を惜しまない人々だと思います。東北地方がまたすぐに再建され活性化されることを確信しております。日本はどんな困難も克服できるということを示しました。戦後日本は、安定し美しい国、そして経済的や文化的の先頭を立ってきました。アフガニスタンの再建や開発に取り組むとき、我々は第二次世界大戦後の日本をいつも模範にしてきました。日本という国から、何十年間も破壊されてきた祖国を立て直す刺激を受けてきました。その成果例をいくつかあげますと、教育の面では、改善され800万人の生徒が学校に通っており、これは、10年前の8倍の数です。高等教育への入学者数も早いペースで増加しています。そして、大人の識字率はなんと1970年代よりも高いという結果が出ております。保健分野では、国内に1800もの保健医療施設を構築その範囲と効率を上げております。その実りもあり、乳児の死亡率

や5歳以下の幼児の死亡率、そして産婦死亡率が低下しました。女性の地位向上が顕著になっていることや、女性国会議員が28%を占めたりと政府系の仕事で活躍される女性が増えております。自由な活動は、民主主義的選挙や恣意的な規制なしの報道に見られるように、地域にとり良い例でしょう。たくさんの困難を乗り越えてきたアフガニスタンのこれらの成果が、東北で被災された方々にとり復興を想起させるものとなることを願います。

アフガニスタンは、日本と緊密で深い関係が築けることができ大変恵まれています。昨年の6月に菅首相当時がカルザイ大統領にむけて「我々の関係は、これからの将来に向けて何千年も続いていくでしょう。そして、助け合いながらお互いを感化していく関係を保ちましょう。」と述べました。この考えに私は同じ気持ちです。

アフガニスタン女性の新たな社会的地位向上

パイカン三等書記官

ロンドンオリンピックが終わりを迎えようとしている。アフガニスタンではメダル獲得数2つ目となる銅メダルを獲得した国民的英雄

(Continued on page 3)



カルザイ大統領と高官達は 通例会議でAfghan Women Networkと女性をとりまく環境の改善する方法について話し合いました

であるテコンドーのロフラ・ニクパイ選手への喜びが高まっています。また、今回のオリンピックで初めて女性アスリートの競技出場を容認した国もあり、今まで前例のなかった事だけにいつまでも人々の心に刻まれるのではないだろうか。6人のアフガニスタン選手団のうち一人女性選手が参加しました。陸上の短距離選手のターミナ・コヒスタニ選手です。メダル獲得まで届きませんでした。コヒスタニ選手の競技参加や決意、そして勇気は感動的でした。新たな女性の進出はアフガニスタンの志を表しているのではないのでしょうか。

よくアフガニスタンは女性の社会進出を妨げようとしているという誤解されています。歴史的観点や現代的にみてもこれは、事実ではありません。正確な知識がないばかりに起こる偏見でしかなく、かつて権力を握っていたタリバン政権の横暴な行為からくる誤解です。

男女平等の観点からも昔のアフガニスタンは地域的にも進歩的している国でした。1923年に遡ると、アフガニスタン国憲法は平等と女性の選挙権や基本的権利を周辺国よりも早くに確定しました。女性は社会の象徴であり、1970年代はカブール大学の男子学生の数を抜きました。

タリバン政権が制圧し始めると、女性の権利がこれまでもなく剥奪されてしまいました。教育の機会を奪われ労働の権利もなくなり、男性の親戚の助けもなく家に閉じ込められた生活をしており自由を奪われてしまいました。私の場合、とても幸運でした。女性の地位向上にむけて努める母親と協力的な父親に、4人の姉妹に囲まれて育てられた私は、タリバン政権の影響が私の町に及ぶまで学業に励むことができました。学校に行くことさえも許されなかった時もありましたが、英語などの勉強を辞めることだけはしませんでした。勉強のやる気だけは失わないようにと。

アフガニスタン市民がタリバンから

国内・国際的活動の助けもあり解放されてから、もう一度勉学を再開することができました。まず、最初にカブール大学を卒業し、さらに上の教育を日本で目指すことにしました。今年の4月、大変光栄にも東京のアフガニスタン大使館からタリバン政権が崩壊してから一番最初の女性政治家ということで賞賛されました。

私の話はほんの例にすぎないかもしれませんが、苦難な時期や男女平等に向けての献身あつてのアフガニスタン女性の決意の表れだと思います。国会での女性議員の増加が良い例だと思います。大使、知事、市長、将官など高い地位の職業に就いています。そして、毎日を生懸命に生きています。ファティミ大使の思いを反映させるためにも、東京国際会議で約束された貢献は真にふさわしくあるべきです。

日本、アフガニスタンの経済関係に大きな一歩



ジェトロ 石毛博行理事長より
アフガニスタン独立93周年記念日に際し心からお祝い申し上げます。日本と世界各地の貿易や投資を促進する役割を担う一環として、今年ジェトロは国際的な食品・飲料展示会であるFOODEX JAPAN 2012に初めてアフガニスタンの企業を招致しました。その企業は、いくつかの活発な問い合わせがあり、我々はアフガニスタンと協力して大きな前進をとげました。

日本が戦後の復興で得た体験を考え

ると、貿易の拡大は確実に経済の復興を促進すると思います。安定した治安や民間企業の活性化、また人材開発の面で未だたくさん課題がありますが、真摯にアフガニスタンの人々が国際社会と共に困難を乗り越えることを願っています。そして、更なる民間企業の活性化は経済の拡張を導くと思います。我々ジェトロは、この目標に向かい全力を尽くします。

カルザイ大統領、ラスル外務大臣、イスラム諸国会議機構に参加

第四回イスラム諸国会議機構(OIC)は8月14日から15日にかけてマッカ=アル・ムルマッカにて、二聖モスク指導者、サウジアラビア国王アブドゥッラー・ビン・アブドゥル・アズィーズの主導権で開かれた。

ハーミド・カルザイ大統領は出席した高官への表明で、イスラム世界のイメージが下がってしまっているのも、諸国のあるべき姿が適切に映し出されていないためだと強調し、「宗教や文化の低下や、5億人もの平和を愛するイスラム教徒の暮らしを、少数のテロリストの行動によって無視してしまうのは不当なことである。このことは全イスラム教徒を傷つけるだけでなく、テロリストの敵意と言う油に火を注ぐことになり、人々の恐怖心を強めることになる。」と述べた。またカルザイ大統領は災難を乗り越え、イスラム世界の悪いイメージを改善していこうと同国人を元気付け、「イスラム教国、またイスラム教国会議機構の責任と義務はイスラム世界の本当のイメージを促進し、その人道主義的な思いを広めるために勤めることだ。」と述べた。

ザルマイ・ラスル外務大臣はアフガニスタンを代表し、イスラム諸国会議機構(OIC)の予備会談に出席した。会談はイスラム教徒共同体である、ウンマの団結に焦点を当てた。また、シリアや、マリ、パレスチナの状況や、

ミャンマーのリョヒンギャというイスラム少数民族の迫害について議論を行った。ラスル外務大臣はアフガニスタンが4カ国会談での決議、またサミット会議での最終公式表明の草稿を容認したことを表明した。

ラスル外務大臣は、前向きな支えをしてきたアフガニスタンに派遣されたイスラム諸国会議機構のメンバーに感謝の意を述べた。「10年もの間、アフガニスタンは国際機関やOICの兄弟、姉妹に支えられ、長い軌跡を築いてきた。アフガニスタンの人々が満足いく生活ができるような機会をつくり、多くの進化を遂げた。」

その上、より大きな結果を残すにはOICメンバー、また諸国によって、アフガニスタンの平和に導く実践的サポートが必要だと述べた

日本から食物生産への支援

農林省、灌漑省のセレモニーにおいて、日本や国際連合食糧農業機関は「農業生産拡大及び生産性向上計画」を支援し、関連ドキュメンテーションは農林省において契約された。農業灌漑牧畜省次官であるAbdul Ghani Ghorian氏、JICA駐アフガニスタン・イスラム共和国特命全大使館の高橋礼一郎氏、山田好一氏、またFAOアフガニスタン代表Ousmane

Guindo氏が参加した。この問題を通じて、日本は小麦や様々な野菜の種子や豆類を肥料と共に、サル・イ・ブル、バーミヤン、ゴーラ、ナンガルハール集の農家の方々に提供する予定だ。国際連合食料農業機関は技術的な支援も行う。8万世帯が収穫高増加によって利益を得る見込みだ。

開発が進行し、国内最大級の太陽光エネルギー発電所建設計画

新エネルギー源を造り出す責任に伴い、アフガニスタン国内で最大となる太陽エネルギー発電所がバーミヤンの地にニュージーランドの援助のもと設立される。発電所は1,050メガワットのエネルギーを造り出し、2,500もの家、オフィスは政府のビルに供給する。

ガズニー市では、電力計画は将来成功するための機能的発達とされてきた。ガズニー市や、近隣の地域にもこの電力計画を広めるために働きかけている。これに加えて、2013年にガズニー市がイスラム世界の首都となることを踏まえ、市内の5つの歴史的遺跡を再建築したつの計画はほとんど終了し、他の13の計画は現在進行中で、2013年までには完全に終了する予定だ。



国の開発で個人的に行動を起こすとき、カルザイ大統領はあらゆる問題を議論するためサマングンでの再建を仕切る使節や高官たちに出会った。そのひとつの議題がダラソウ鉱山に通じる道路の建設である。これは公共事業省により促進されており採鉱業界にも地元民にとっても利益をもたらすものである。

ロンドンオリンピックでの感動

アフガニスタン・イスラム共和国から、ロンドンオリンピックの6人の代表者の1人であるロフラ・ニクパイ選手が男子テコンドーで銅メダルを獲得した。トーナメントでは1試合負けてしまったが2ショット目を決め、合計3勝した。これはアフガニスタンで2つ目のオリンピックメダルであり、1つ目もニクパイ選手が2008年の北京オリンピックで勝ち獲たのである。

国内で期待の声が上がり、彼の勝利を進歩ととらえる国民の両方にとって英雄であるニクパイ選手は、何百にもわたるクラブに所属する25,000人ほどの術者と共にアフガニスタンにテコンドーブームをにもたらした。

今回のロンドンオリンピックでは、6人の選手が力の限りを尽くし、競技精神と国際的博愛精神に気持ちを注ぐことでやる気触発の基盤としての役目をアフガニスタンで果たした。たくさんある成功秘話のひとつとして、アフガニスタンの女性を代表することを誇りに思っているターミナ・コヒスタニ選手がいる。メダルこそ獲得できなかったが、彼女は100メートル競技において自己ベストを更新したのである。コヒスタニ選手は



今、女性志望者のためのスポーツクラブを作ることを計画している。テコンドーでメダリストに成りえると人気だったネザール・バハウィ選手は3位決定戦で銅メダルを獲得することこそ出来なかったが、怪我をしながらも健闘した。この怪我で彼は試合後病院へ行かなければならなかったが、それでもなお彼の勇気と精神は彼を最終戦まで持ちこたえさせた。

ハーミド・カルザイ大統領はニクバイ選手と彼の仲間を祝うためロンドンオリンピック最終決戦中の金曜日に電話をしてお祝いの言葉を述べた。彼の言葉は国全体の高揚感や感謝の気持ちを反映した。

ネザール・アーマッド・バハウィはロンドンオリンピックの開会式でアフガニスタンの旗を掲げて歩いた。(グローバルヴォイスより)

843品の歴史的遺品が返却される

何百にもものぼる歴史的遺品がイギリ

スの協力の下、今月アフガニスタンに返却されました。これらの芸術品は国立博物館や様々な地域から過去に略奪されたものです。その中には仏像や象牙など20品にもものぼる希少な作品が含まれます。それらは1、2世紀のイスラム、青銅、グレコ・バクトリア、クシャーナ朝時代に属し、バグラムの古代地帯に関連するものです。

また、2009年にイギリスは約1500品の歴史的遺品のアフガニスタン国立博物館への返却を援助し、最近の移譲会にてイギリス政府は継続的な支援を約束しました。

ザルマイ・ラソウル外務大臣は、これらの遺品を発見しアフガニスタンに返却することはすべてのアフガニスタン人の誇りに関わる問題だと明言しました。

(返却者の儀礼写真)
大学にファイバーオプティック回線が設備され、国際機関に繋がれる

この計画は電気通信・IT大臣と高等教育大臣が協力して全てのアフガニスタンの大学にファイバーオプ

ティック回線システムをインストールするというものでした。この取り組みは他にも、交流を容易にし、アフガニスタンの学生の研究機会を増やすことで、アフガニスタンの機関とより高いレベルの学習を行う国際機関の関係を築くことにも繋がるでしょう。

この計画の最初の段階はカンダハル大学、ナンガルハル大学、バルフ大学やカブール医科大学など教育問題に重点を置いている機関から始まるでしょう。

新しい大使館のポッドキャストが完成いたしました：ミニキャスト#5

今回はカルザイ大統領の認知度についてです。是非ご覧ください

http://www.youtube.com/watch?v=ZBXENI9D6-M&feature=youtube_gdata_player



106-0041 東京都港区麻布台2-2-1
在日本国アフガニスタン大使館

電話・ファックス
 Tel: 03-5574-7611 ・ Fax: 03-5574-0195

ウェブサイト
www.afghanembassyjp.org

Twitter: @afgembtokyo



Contact Us

当大使館のニュースレターに関するご意見、ご質問等ございましたら、大使館広報部 Jason Pratt宛に電子メールにてご連絡下さい。

pratt@afghanembassyjp.org
 Facebook: www.facebook.com/



アフガニスタン大使館ポッドキャスト